

100年 先を読む

21

物事は 7世代先の子孫を 考慮して決定する

未来世代から収奪している 現役世代

9月にニューヨークの国際連合本部で開催された「気候行動サミット」ではスウェーデンの少女G・トゥンベリさんのわずか5分の演説が世界を震撼させ、各国首脳の声明は完全な脇役になってしまった。母親が歌手、父親が俳優という血筋の影響もあり、演技過剰という批判もあるが、大人は子供の生活する未来の環境を収奪しているという告発は共感され、世界各国で400万人にもなる若者が、通学しないで街頭行進をするほどの影響をもたらした。

これまで長期の視点での環境問題を告発した名著は何冊も出版されている。現在の世代が未来の世代の生存環境を収奪しているという視点では、R・カーソンの『沈黙の春』(1962)は、農業として使用される化学薬品が生物世界にもたらす影響を告発し、T・コロボンなどの『奪われし未来』(1996)も同様に、野生生物だけではなく人間にも生殖異常をもたらすという警告を世界に伝達した。そして今度は気温の上昇が未来世代の環境を破壊するという告発である。

収奪で成立している社会構造

しかし、未来の世代の権利を収奪しているのは自然環境だけではない。

現在の日常生活で何気なく使用している有限の鉱物資源も収奪し、未来の世代に譲渡できない事

態にある。金鉱は現在の傾向で採掘していけば十数年で枯渇し、銀鉱も同様である。都市鉱山という名称で、廃棄される製品から金属を回収する技術も普及し、それらの鉱物が大量に存在している海中や海底から採掘する技術も開発されているが、当面は価格で対抗できない。

自然資源だけではなく社会資源も未来世代からの収奪が進行している。代表は年金である。今年6月、5年に1度の年金の財務検証が発表された。さまざまな前提で計算されているが、話題になったのは年金が現役時代の収入の半分しか支給



されず、65歳から30年間という期間を長生きするためには貯蓄が2000万円必要という結果で、国会で紛糾した。年金制度の基本は現役世代が納付する掛金を引退世代が受給する仕組みであり、未来からの収奪の典型である。

数多くの国々で国家財政も未来の世代に借金を移管している。欧州連合(EU)に加盟するためには、財政赤字が国内総生産(GDP)比で3%以下、政府債務残高は国内総生産比で60%以下という基準がある。現在、日本の政府債務残高は1325兆円、国内総生産は560兆円で、比率は237%で世界最大になり、これではEUに加盟できない。1980年には49%であったから、ひたすら増大してきたことになる。この現代世代による債務は未来世代が返済していくことになる。

欲望の増幅から脱却すべき時期

トゥンベリさんの演説に先立つこと7年前の2012年に、ブラジルで開催された「持続可能な開発会議」で同様の演説をした人物がいる。世界最貧の国家元首として有名なウルグアイのJ・ムヒカ大統領である。環境問題を議論する会議で「環



境危機の原因は環境にあるのではなく、現代社会の生活様式や経済構造が原因で、それは政治危機である」と喝破し、欲望の増幅により成立する経済構造に立脚した政治構造を改革することこそが問題解決の基本であると演説した。

このムヒカ大統領は「貧乏とはモノを所有していないことではなく、無限の欲望があり、いくら所有しても満足しないことである」と力説している。

それを証明する『地球家族』(1994)という書籍がある。世界30か国の家族それぞれの家財道具すべてを屋外に搬出した写真集である。膨大な家財のあるアメリカや日本の幸福順位は下位である一方、わずかな道具で生活しているブータンやインドの幸福順位は上位である。

トゥンベリさんの痛烈な批判への回答は存在する。アメリカ大陸の先住民族ナヴァホ族は「現在の環境は未来の子孫から預託されたもの」、イロコイ族は「7世代先の子孫のことを考慮して物事を決定する」という精神を継承している。

そのアメリカ大陸にせいぜい400年前に進出した人々の欲望の構造が世界に浸透し、世界を不幸にしている。

欲望を喚起して収益を増大させるという商売を見直し、未来の世代に批判されない仕組みを創造すべきである。



東京大学名誉教授
つきおよしお
月尾嘉男
Tsukio Yoshio

昭和17(1942)年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら私塾を主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。著書に「幸福実感社会への転進」(モラロジー研究所)、『転換日本』(東京大学出版会)ほか多数。